

# 総合科学部

## 研究室紹介

毎度お馴染み、五つの研究室にインタビュー！

今号は酒祭り特集もあるということで、オススメのお酒についても聞いてきました。

■ 地域文化プログラム

青木 利夫 先生

■ 言語文化プログラム

コジマ・ルー 先生

■ 行動科学プログラム

坂田 桐子 先生

■ スポーツ科学プログラム

船瀬 広三 先生

■ 生命科学プログラム

安藤 正昭 先生

あお き とし お  
**青木 利夫**  
**研究室**

地域文化プログラム



狭い西条を飛び出せ！ 世界は広いよー！

### ○研究内容○

主な研究内容は二十世紀前半におけるメキシコの教育史です。具体的には、国家側の教育政策に対して農村地域の住民がどのような教育を求めているのかということや、声を上げています。となると住民の声や欲しいため、住民の政府への請願書などの文献調査をおこなっています。すると今まで、農村地域では学校教育をあまり受け入れないという通説があったのですが、調査していると多くの住民が学校教育を求めているという違った歴史の側面が見えてきて、改めて歴史研究の面白さを実感しています。このように、歴史を通してメキシコ社会を明らかにしたいというのには私の大きなテーマになっています。

他には、ストリートチルドレン問題などの社会問題にも関心がありません。メキシコの現状を見ているとさまざまな社会問題に無関心ではいられなくなるんです。私にとって、メキシコを研究することというのは、メキシコ社会を通して、自分の生きている社会や価値

観がどういうものなのか知ることなので。

### ○きっかけ○

大学に入った頃は勉強をあまりせずに、遊んでばかりでした。さすがに、大学二年のときには何か勉強しなければと思い、なんとなく本を読み始めて、日本の教育に関して興味を持つようになりました。ですが、私が外国語学部のスペイン語学科に在籍していたこともあり、将来どうするかからなくなりましたね。

そしてあるとき、イバン・リッチの「脱学校の社会」という本に出会ったのです。学校という近代制度が人間を縛り、逆に人間が「学校化」されてしまっている。本来、学校は行きたい者が行けばいいし、行きたくない者は行く必要はないのだ、という当時の日本社会にとって考えられないような内容でした。そして、筆者のイバン・リッチがセミナーを開いていたのがメキシコだったのです。これを知って、メキシコには制度化が進んだ「先進国」とは違った生活や価値観があるのではないかと考え、メキシコに一年間旅行に行きました。メキシコは不思議な魅力にあふれた国で、はまりましたね。この旅が今の私をつくったようなものです。

### ○学生コト○

狭い西条を飛び出せ！ 世界は広いよー！ ということです。狭い西条で人間関係などのさまざまなことを完結させるのではなく、もっと世界をのぞいて欲しいのです。世界をのぞくには、私のように旅をするだけでなく、本やテレビ、インターネット、映画などいろいろな方法があります。そして、常に問題関心のアンテナを張っておくことが重要です。アンテナを張っておけば、何かしらの電波をキャッチできます。人生を変える一冊の本や、一人の人間に出会えるかもしれないよ。

### ○お酒について○

基本的にはビールでも日本酒でも焼酎でも何でも飲むのですが、今は、赤ワインばかり飲んでいますね。赤ワインは奥深いですよ。あと、スペインを旅行したときに立ち寄ったヘレスという町のシェリー酒はすごくおいしかったですね。どの酒がおすすめというのは言えませんが、お酒を文化の一つととらえ、どういったつくられ方がされ、人々がどんな思いを抱いてそれを飲んでいるか考えながら飲んでみると、ひとあじ違つかもしれませんね。

(担当) 19生 田中 邦洋



## コジマ・ルー 研究室

言語文化プログラム

いろいろな先生の授業に出して、  
自分の道を探ってみたい。

### ○研究内容○

研究テーマは異文化理解です。異文化理解は広いテーマですが、私の範囲は主として、ドイツと日本の政治、そして古くからある両国間の文化関係の研究です。

もともと文学、ジェンダー学を学んでいたのですが、現在はドイツ語圏の女性たちが日本に関して記した文献を分析しています。明治、大正、昭和初期のファシズム時代のもの調査・研究しています。

現在扱っているのは大衆文学です。大衆文学は文学的価値のあるものではありませんが、大勢のヨーロッパ人に読まれ、日本に関するイメージに多大な影響を与えました。ドイツ人女性の日本像が時代の変遷につれて、どのように変化していったか、また、男性文学と女性文学との日本イメージに対する違いを重点的に研究しています。

### ○きっかけ○

研究は私の人生と関係しています。

私自身、長い間外国人として日

本で生活してきました。私の家族も日本人です。これまで、いろいろな悩みや相互の誤解を経験してきました。私ほど長期間日本に滞在している女性は少ないでしょうが、同じような境遇の女性の日本に対するイメージに興味を覚えました。

どうやって日本のイメージは作られるのか。

実際、私自身がひとつの例になっています。

### ○学生時代○

すごく楽しい時期でした。

ですが、大学に入学した時は一九六〇年台、ドイツで学生運動が盛んな時代でした。楽しいだけでなく、刺激的な学生時代でもありました。授業だけでなく、さまざまなデモがあり、今の大学の雰囲気とは違いました。

私の大学での専門はさまざまですが、主専攻の言語学他に、当時はジャーナリストを目指していたのでジャーナリズム、そして、幼少時代からアジア（特に中国）に興味があったので中国語を一生懸命勉強しました。

学生時代の一番の冒険は香港旅行です。

当時中国は入国が禁止されていました。どうしてもアジアに行きたかった私は、休暇中に香港に行き、そこでアルバイトをしながら過ごしました。香港滞在も大変で

したが、帰国するのが更に大変でした。格安のチェコ航空を利用したので、一度プラハに立ち寄らなければならぬのですが、帰国する際ちょうどプラハで革命が起き、プラハ経由では帰国できず、シンガポールに一週間滞在させられて、なんとか無事帰国することができました。

### ○学生に一言○

大学の四年間は一番自由な時間です。社会人になると、大変になります。たっぷりと大学生活を楽しんでほしいものです。

特に大切なのは人間関係だと思います。友達を作る機会は年を重ねると減っていき、若いうちにたくさん友達を作ってください。恋愛も大切ですが……。

もちろん、せっかく大学に来たのですから勉強が一番大切です。総合科学部は、一年間やりたいことを見つけて時間があります。いろいろな先生の授業に出て、自分の道を探ってください。

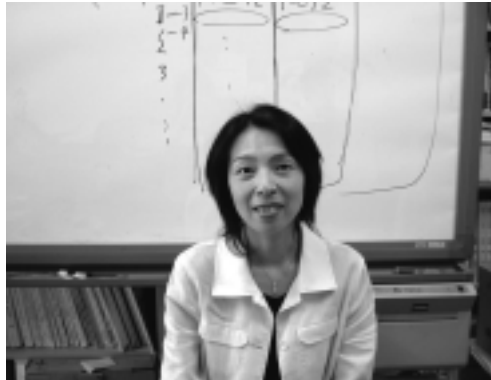
### ○お酒について○

日本酒も好きですが、ワインが好きです。日本で売られているドイツワインは甘すぎるので、ドイツから取り寄せています。

(担当 19生 久保 奈津美)

さか た きり こ  
坂田 桐子  
研究室

行動科学プログラム



時間を有意義に使って色々なことに挑戦し、  
それにより一生懸命に取り組んでほしいです。

## ○研究内容○

私は、人間関係について研究する社会心理学という大きな領域の中で、特に集団での人間関係や集団行動について研究しています。さらにもっと特定すると、その中のリーダーシップについて主に研究しています。人は生きていく上で必ず集団と関わらなければならぬので、どうすれば適応的で効果的な集団運営ができるのかを追求しています。

## ○きっかけ○

子どもの頃から、一人ひとりそれぞれに個性を持った人間なのに、それが集団になるとその性格が変わってしまうことをとても不思議に思っていました。

また、学級委員など人前に立つ経験を多くしたことから、人をまとめる難しさをいつも感じていました。それら、折にふれて漠然と感じていた興味・関心を持って広島大学に入学しました。そこで初めて心理学の授業を受けて「おもしろい！」と感じました。そして、その中でも一番自分にぴったりの来

たのが社会心理学だったんです。

## ○学生時代○

一年生の時は、今でもあると思いますが、「大学祭実行委員会」の活動ばかりやっていました。そして二年生になって、現在の「行動科学プログラム」の前身のプログラム(当時は「コース」と呼んでいました)に所属し、そこで「心理学基礎実験」という授業を取ったんです。すると、それがとてもきつかった。課題は毎回あって、遅刻・欠席なんてもつてのほか。それから勉強に追われるようになって、いつのまにか四年生になっていました。一度は社会に出ようかとも考えましたが、結局、研究を続けることにしました。

## ○学生に一言○

時間を有意義に使って、色々なことに挑戦してほしいです。遊びたいのであれば遊んでいいし、授業を頑張るのであれば頑張る。クラブならクラブを。遊びもクラブも勉強も、全てやりたいのであれば、それでも大いに結構です。中途半端にせず、とにかくなんでも一生懸命にやってほしいです。ぼんやりせずに、自分の興味の赴くままにどこん何かに打ち込んでみて下さい。できれば、「これー」よりも「あれもこれもー」というふうに何にでも取り組む、だからといってそれらを「広く浅く」す

るんじゃなくて、「広く深く」してほしいと思っています。そしてこれらの経験は、後で必ず役に立ちます。

私の場合は「大学祭実行委員会」に所属したことで、他大学の人たちがイベントの企画を依頼する会社の人たちとの交流など、様々な人との出会いを経験できました。この経験は今の私の研究にも直接活かしています。

また、せっかく皆さんはこの学部に入学されたのですから、自分が専門として勉強する以外の学問分野についても色々と経験してみたい、様々な学問と出会う機会を得てほしいです。それが総合科学部のなにより強みだと思います。頑張ってくださいね。

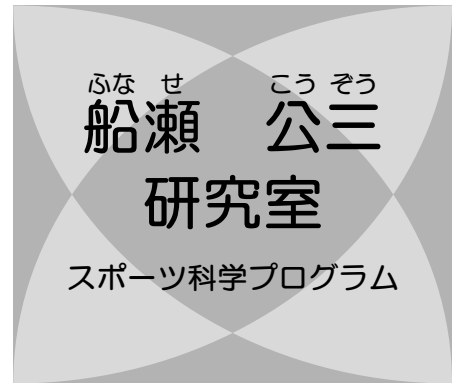
## ○お酒について○

お酒は全般的に好きです。だからといって、大酒飲みではないですよ(笑)。少量をチビチビと飲むんです。西条のお酒で言ったら本酒の「亀齢(きれい)」が好きです。

あと芋焼酎も。特に、プレミアアのついでに「森伊蔵(もりいぞう)」というのを以前思い切って飲んでみたんですが、それはとてもおいしかったです。他にも、ワインの赤、ウイスキーの「響(ひびき)」などもお気に入りです。

(担当) 19生 寺澤 潤哉

自分には関係ないと思うことが、  
意外なところで役に立ちます。



## ○研究内容○

私の研究は人の運動制御機構 (Human Motor Control) という分野の研究です。

具体的に言えば、人の巧みな動きや反射的な動きも含め、脳神経系が運動をどのようにコントロールしているか研究しています。このような研究はスポーツ科学だけでなく、リハビリテーション分野にも深く関わっています。脊髄反射を誘発する誘発筋電図法や、脳の運動指令を出力する運動野の細胞を直接刺激する磁気刺激法などを使います。これまでに、人の随意運動中に反射がどのように利用されるかを主に調べてきました。最近、磁気刺激を用いて手指筋の支配運動野を刺激し、運動誘発電位を観察しながら、対側同名筋の筋収縮効果によってどのような影響を受けるかについて調べています。

また、人のミラーニューロンシステムについても調べています。このニューロンはもともとサルで発見されたもので、その後、人でも大脳皮質四十四の、いわゆる運

動性言語中枢に存在することがわかってきました。

このニューロンは他者の動作を見ている時や、見たものを真似て自分が動作をする時に働くとされ、これがコミュニケーションにおいて重要な働きをしているのではないかと言われています。興味深いことに、このニューロンは運動野との結びつきが強く、「しゃべる」ことと「運動」の関連性が推測されています。実際、私たちは、話しながら無意識のうちに身振り手振りを行うことがよくあります。そこで音読課題時の手指筋の支配運動野の興奮性変化についても調べています。

## ○きっかけ○

大学では水泳部に所属して部活には熱心だったのですが、ふと勉強らしい勉強をしていないということに気がつきました。そのため大学院に行くときに、人の身体について勉強したいなと思いました。それで入った大学院でのゼミが運動生理学を研究しているところだったので、そこで運動をコントロールする脳の働きについて触れたのがきっかけでした。

## ○学生時代○

中学から大学までずっと水泳を一生懸命やりました。スポーツ系の先生には多いと思いますが、学生時代は本当に部活ばかりやって

いましたね。

## ○学生に一言○

月並みな言葉かもしれませんが、学生時代はいろんなことを体験してみるのが大切ではないでしょうか。積極的に、自分とは関係なさそうなことでもとりあえずやってみればよいと思います。やってみたら意外と楽しいと感じることも多くあるし、学生時代はまだ失敗というのが大目に見てもらえるときです。部活を一生懸命やってみたり、海外に出てみたりするのでもいいかもしれません。

せっかく総合科学部に来たのですから、いろいろな分野に触れてみるといいと思います。自分の体験から言っても、自分には関係ないと思っていたことが将来、意外なところで役に立つということもあります。だから、「つまらないし、自分には関係ないから」と最初から決めつけないで、幅広い知識と経験を得てほしいですね。そうしている内に、自分のやりたいことというのが見えてくることもあると思います。

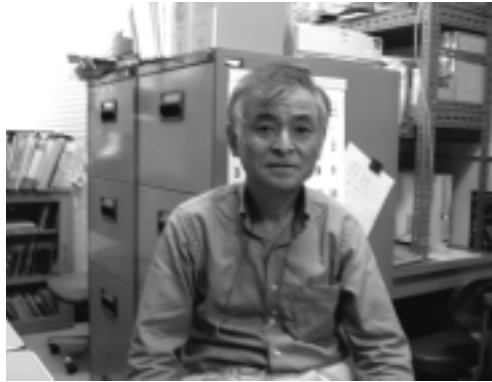
## ○お酒について○

お酒はあまり飲みません。

(担当) 19生 稲村 円

あん どう まさ あき  
安藤 正昭  
研究室

生命科学プログラム



### ○研究内容○

今は水飲み、をやっています。水は生きるために大事だということも、みんな喉が渇くということも知っています。けれど、「脳のどの部分で、水が飲めなくなるのか？」ということは分かっています。脳は複雑で、特に人間の脳はその最たるものであり、その中身を知るのには難しいことです。

そこで魚を選びました。水の中にいる魚の口の中にはいつも水があるため、彼らは食道の括約筋を緩めれば水が飲めるのです。しかし我々は、水場を探し、蛇口をひねり、口の中に入れる。その段階を経なければ水が飲めない。魚も人も脊椎動物だから、複雑な人間の外側を全部はぎ落とせば、魚の一番シンプルなものが見えるだろう。それで、医学の人が哺乳類で解明出来ない事柄が分かるだろう、という位置づけで研究しています。

### ○きっかけ○

きっかけは、僕がまだ高校の頃

ひとりの人が一度に集中できるのは

すごいと思うます。

です。僕は山口県出身なので、夏は水不足になりました。そういうニュースを見て不思議で仕方ありませんでした。なぜ、島の周りにたくさんある海水を飲まないのだろうと。それが一番初めです。

なぜ魚は海水が飲めるのに、人間は飲めないのか？ だから最初は、魚が海水を飲める、ということが不思議でした。それを理解したいと思い、ずっとやって来ました。喉の渇きの話は、後付けですね。

### ○学生時代○

僕はあまり学生に自慢できる学生ではなかったのですよ(笑)。学部の時必死になってテニスをやりました。僕が四年の時は、西日本を制覇しました。広島大学初優勝でした。だから卒業の時、クラブの成績には自信があったけれど、大学入って何を勉強したんだろう？ というのが寂しかったです。それで、勉強したんですよ。……僕、大学院ペリで入りました。その自信があります(笑)。

いつも、ペリだから人よりも倍以上勉強しなけりゃいけない、と思って一生懸命勉強して、気がついたら……こうなっていました(笑)。

### ○学生に一言○

「とにかくやってみろ」という

ことを言いたいですね。今の学生さんは頭が良すぎて、これをやったら何かいいことがあるはずだ、と考えるでしょう。そうではなく、遊びでも何でも自分がやりたいことをやってみろ、結果は気にするな、と。そうすれば道は開けると思っていますよ。それが失敗したとかに拘らず、全部自分の血となり肉となるわけです。せっかくいい才能を持っているのに、目移りしすぎて……もうちょっと馬鹿でもいいんじゃないか、と思っんです。

ひとりの人が一度に集中できるのはひとつだと思えます。だから、順番をつけて、ひとつのものに何年か集中することが大事です。そうしたら物になる。人はそれで見てくれるから、その方がいいと思えます。

でも皆さんは力があるから、多分ひとつからふたつ……みつ……ぐらいは行けると思えます。それで十分総合になれると思えます。

### ○お酒について○

お酒好きです。好きだけどころなに強くないのですよ。雰囲気が好きで……酒が酒を呼ぶのですよ。この前は、沖縄の泡盛を飲みました。卒業生が沖縄出身で、彼の就職祝いに嬉しくてガバガバ飲んで失敗しました。

(担当 19生 中村 洋平)

「研究室紹介」ではおなじみとなりつつあるこの質問。

今回も、研究室の五人の先生にお聞きしました。

先生方は、「総合科学部で専門性を追究する意義」について、どのように考えているのでしょうか？

## 総合科学部で

## 専門性を追究する 意義とは？



青木 利夫先生

総科は、学生が自らの専門性を高めながら、それを活かす教養を学べる素晴らしい学部なのです。

そもそも、専門性ってなんでしょうね？ 例えば医者には医者の専門性、弁護士には弁護士の専門性があるように、専門性というのはひとくくりにできないものです。つまり、総科ではほとんど



何でも研究できますし、それぞれの将来の夢が異なっている以上、この質問には答えようがないのです。このような質問が出るのは、総科における専門性というのがよくわからないことへの不安の表れではないでしょうか。  
さらに、当然自分が目指す将来のための専門性を追求することは大切ですが、一方で私は一部の人を除く多くの人が総合職に就職している今、専門性をより活かすための「教養」も求められていると考えています。総科は、学生が自らの専門性を高めながら、それを活かす教養を学べる素晴らしい学部なのです。



コジマ・ルー先生

ひとつ屋根の下に文系と理系が共存すること、これがポイントです。

ひとつ屋根の下に文系と理系が共存すること、これがポイントです。そして、文系、理系を問わず、先生も学生もお互いにコンタクトがとれること。これはとてもいいことだと思います。

総合科学部は十九世紀の大学の体系に似ています。

もともとラテン語で大学という言葉、"Universitas" は、「総体、全体」という意味からきています。現在のような広いキャンパスの中で専門分野が個別に存在しているのではなく、文系、理系の先生がひとつ屋根の下で研究し、お互いの意見を交換しています。総合科学部は特殊でめずらしい、希少価値のある学部です。

総合科学部はとても良い環境にあると思いますので、どんどん利用してください。

# 総合科学部で

## 専門性を追究する

### 意義とは？

できるものこの学部で学ぶ強みだ  
と思います。学生の皆さんは総合  
科学部を大いに利用して、自分の  
可能性を広げて下さい。

自分の選択肢を増やすとともに、  
本物の「教養」を身につけて  
ほしいですね。

学生の皆さんは総合科学部を  
大いに利用して、自分の可能  
性を広げて下さい。



坂田 桐子先生

私は社会心理学を専攻している  
のですが、最近、社会心理学の領  
域では単に社会学や心理学からの  
アプローチだけではなく、様々な  
学問分野からの学際的なアプロー  
チが試みられています。専門その  
ものが「学際化」しているわけで

す。そのような場合、ひとつの専門  
しか持たない人だと戸惑ってしま  
いがちですが、私は総合科学部  
で自分の専門以外のことも広くい  
ろいろと学んできましたから、ほ  
とんど違和感なくそれらに対応で  
きますね。そのことは、総合科学  
部ならではの強みだろうと思いま  
す。学際ということ、学生はよく  
「広く浅く」になり、結局どれも  
中途半端になってしまうのではな  
いかといった心配をしています  
が、頭は使えば使うほどよく働く  
ようになるのですから、「広く深  
く」も可能なのです。

また、自分の専攻する学問を相  
対的に眺めることができるように  
なるのも大きなメリットだと思  
います。自分の専門が広い学問分野  
の中でどこに位置しているのか、  
どんな特徴があるのか、それら自  
分の立場をはっきりさせることが



船瀬 広三先生

私の大学院での恩師もおっしゃ  
られていたのですが、専門性を深  
めていくというのは例えるならア  
ルフアベットの「I」型のように、  
深い穴を掘るようなものです。専  
門性は深まりますが、穴自体は小  
さなものになりがちです。もう一  
つは「T」型に穴を掘っていく方  
法です。これはスタートのときに  
周りの土も広く掘っていきます。  
間口を広く浅く掘っておいて、自  
分の興味のある分野の部分を探

していくやり方です。そうすれば  
幅広い知識も身につけてしま  
うし、将来いろいろな選択肢を持  
てると思います。総合科学部は医学  
部や歯学部のように、ある特定の  
職種につくというわけではありません  
ね。去年の卒業生を見てみると、  
公務員になる人もいれば、大学院  
に進む人、企業に就職する人と本  
当に様々です。なので、何か一つ  
自分の専門を持っておくと同時に  
、その周辺の知識も持っている  
ということは絶対に無駄ではあり  
ません。それが「教養」だと思  
います。

僕はこれまでずっと医学系の学  
生を見てきましたが、そういうと  
ころの学生は将来の職業に迷いが  
ありません。これが良いとか悪い  
とかではなく、総合科学部の学生  
の雰囲気は全く違いますね。総合  
科学部には様々な学問分野がある  
というのも理由にあるかもしれま  
せん。オリキャンに行ってみて、  
先生方だけでなく学生にもいろ  
いろな人がいるなと感じました。そ  
ういうところもおもしろいところだ  
と思います。

将来が漠然としている学生も多  
くいるのではないのでしょうか。総  
合科学部は一種モトリアム的な  
ところがあると思います。ですが  
、総合科学部でいろいろなこと  
を学んで自分の専門を発見しつ



## 総合科学部で

### 専門性を追究する

### 意義とは？

つ、広く学び本来の意味での「教養」を身につけていってほしいと思いますね。



安藤 正昭先生

専門性と総合性は相反するものではないと思います。

私は専門性を追求するということとは大事だと思います。

総合科学部でやりたい私のテーマは、今は水飲みですが、人間の心っていろいろはどうやって出来て来たのか？ ということを知りたい。

根っこに何があるか、思っているかということ、喉の渇きや食欲や性欲など。そういう欲求はみんな持っているはず。そういう欲求が満たされた時は快感につながる。心というのは元々そこから来ているのではないかと。つまり心というのは結局自分の気持ちが良いか悪いか、ということと絡んでくるのではないかと私は思っています。だから下手に理屈をつけて頭の中で考えるのではなく、本能的に気持ちが良いものをやるうまいうまうにするようになっていく。

心ということ心理学だと思っかもしれませんが、私は従来の心理学

では心は分からないと思います。ああいうやり方は、ギリシャの時代から哲学がやってきたのと同じであって、実質がないのですね。言葉でもって、ある現象を定義していく学問です。

しかし私は、この神経があったて、この神経があって……役者は三つか五つくらいだと思うのですが、その役者が使っている神経伝達物質——化学物質——を分子レベルで理解できないと、納得が行かない。

総合科学としてやっていくテーマとしては、やはりひとつは環境問題です。だけど、環境の攻め方はどちらかというと広く攻めて行かないといけない。だけど脳の……心の話というのは、ある程度ポイントを狭めていく形の、総合だと思えます。

つまり総合といっても、何でもかんでも広く攻めるのではなく、あるテーマのためにいろいろ動いて行く。そうすることによって、外野のことが次第に理解できるよようになります。それで良いのだと思います。だから、専門性と総合性はまったく相反するものではないと思えます。

ただ総合科学部にいると、テーマの立て方が、私なら「ウナギから人間の心を知ろう」といった、大きい、あるいは全人類的な話に

なると思います。私はそういう風な進め方をします。それが総合だと、私は理解しています。

担当 19 生

稲村 円  
久保 奈津美  
田中 邦洋  
寺澤 潤哉  
中村 洋平

